

ナウマン通信



2020年
7月22日発行
第10号

大阪市立我孫子南中学校

油断大敵

-ゆだんたいてき-

「油断大敵」（ゆだんたいてき）は「気を抜くと思わぬ失敗につながる」の意味を持つことわざです。一説には原始仏教の經典にある逸話が語源と言われています。

逸話は、インドの王様が家臣に対し「油を入れた鉢を持って街の中を歩くよう」命じ、油が一滴でも鉢からこぼれたときには処刑すると告げたというもの。鉢いっぱいに入れた油が一滴でもこぼれないように歩くのは極めて難しいことであり、このことが「注意を怠ると命取りになる」の意味の「油断大敵」の語源となったと言われています。

「油断」は「気を抜くこと」や「注意を怠ること」を、「大敵」は「強く手強い敵」をそれぞれ意味しています。したがって「油断大敵」とは「油断こそが手強い敵」であり、「思わぬ失敗につながる」の意味となり、「気をぬいてはいけない」「注意を怠ってはいけない」と言う戒め（いましめ）の言葉として使います。そうです。今まさにこの油断大敵の時なのです。緊急事態宣言が解除され、学校も通常の生活が始まって早1ヶ月。しかしこの間、東京・大阪をはじめ各地で新型コロナ感染の第2波が訪れている気配です。

残念なことに大阪市内でも5つの小学校で児童が感染し、神戸では中学生が感染したという情報もあります。どちらも大人から感染したようですが皆さんももう一度、気を引き締めなおして感染予防に取り組んでほしいと願っています。それに加え、明日からの4連休は熱中症対策にも十分注意してください。そして、残りの1学期をいい形で終えられるように頑張りましょう！

もう一度、以下の予防に取り組みましょう



手を洗おう



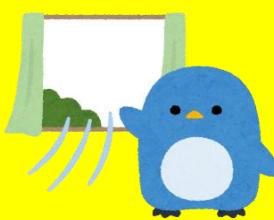
消毒しよう



うがいをしよう



マスクをしよう



換気をしよう



うちで過ごそう